令和８年度　　瑞穂台小学校　学校評価書

１　教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤として，よい校風の樹立と２１世紀を担う人づくりを目指し，社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を図る。

・　よく考え　自ら学ぶ子　　・　心豊かで　思いやりのある子　　・　自ら行動し　たくましい子

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

誰もが安心して学べ，居がいのある学校で，未来を担う子供たちを育む。

合言葉「よく学び　心のふるさと　みずほだい」

【安心して学べる学校とは】

・　児童一人一人の教育的ニーズを把握し，丁寧な指導・支援を行う学校。

【居がいのある学校とは】

・　子供たちが認め合い協力し合える居心地のよい場となるよう，工夫した教育活動を行う学校。

【未来を担う子供たちとは】

・　自らの夢やよりよい社会に向け，困難を乗り越えようとすることができる児童。

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

〇⑴　活用できる知識・技能を習得するとともに，思考力・判断力・表現力等を育む。
〇⑵　認め・褒め・励ます教育に取り組むとともに，自己肯定感，挑戦するたくましさ，思いやりなどを育む。
〇⑶　体力・保健・食・安全に関する教育の充実を図り，それらを関連させ適切に判断し行動できる力を育む。
〇⑷　きめ細かな学級経営，課題の早期発見・早期対応等に取り組み，安心して過ごせる学校づくりを行う。
〇⑸　児童一人一人に応じた寄り添った指導・支援を行い，自信と意欲をもって過ごせる学校づくりを行う。
⑹　教職員の資質・能力の向上を図るとともに，いきいきと働くことができる職場づくりを行う。
⑺　地域の教育資源を活用できる体制を整えることにより，地域と連携・協働した学校づくりを行う。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】
９年間の連続した学びの中で，
生きる力（確かな学力，健やかな体，豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育
～言語能力を身に付け，他者と関わりあいながら，たくましく成長する児童・生徒の育成～

４　教育課程編成の方針

⑴　関係法令・学習指導要領・本市の計画・令和８年度指導の重点等を踏まえて編成する。
⑵　各教科・領域及び行事等の目標や内容を見通し，相互に関連付けながら編成する。
⑶　教育活動の成果と課題を把握し，成果の伸長や課題の解決を図れるように編成する。
⑷　高学年を中心に，効果的に教科担任制を取り入れて編成する。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

⑴　学校運営

児童が安心して学び，居がいのある学校となるために，教職員がいきいきと勤務できる環境を整え，信頼される教職員を育てる。

・　教職員が高い指導力と専門性を身に付けるとともに，強い使命感や情熱をもって日々の指導を行う。
・　校長のリーダーシップのもと，全教職員が力を発揮しチームとして協力し合いながら指導にあたる。
・　業務の効率化や労働時間の適正化を進め，心身ともに健康な状態で職務を遂行する。

⑵　学習指導

〇自他を尊重し，主体的に学びに向かう児童の育成に努める。

⑶　児童指導

〇自分を大切にするとともに，他者の存在を尊重する心豊かな児童の育成に努める。

⑷　健康（体力・保健・食・安全）

〇自らの健康・安全を考え，目標に向かって継続して挑戦する児童の育成に努める。

６　自己評価　A1～A21は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価 〇：指標達成　▲：指標未達成 Ａ拡充　Ｂ：継続　Ｃ：縮小・廃止
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・既習内容を生かして自分の考えをもてるような課題を設定する。 ・グループ学習等を取り入れ，「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を位置付ける。 ・学習の見通しをもてるように，単元の初めにゴールを示すとともに，学習目標に照らした振り返りを行う。 ②相手意識をもって対話できるように，対話の必然性のある課題を設定し，相手の意図を考えながら聞いたり，それを踏まえながら自分の考えをまとめたりさせるなど，発達段階に応じた指導を継続的に行う。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①道徳の時間を中心に，学級活動や「心を育む時間」においても心を育む場を意図的に設けるとともに，「ふわふわ言葉」の掲示などを工夫する。 ②児童の意識化を図るために，「みず台３つの約束」を朝会で取り扱う。 ③教育相談を活用し，相手を思いやることなどについて指導・支援するとともに，早期に児童の悩みに対応するため，相談ポストの活用方法を工夫する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①学校教育目標や学年目標の具現化を図る。 ・学期や行事の個人目標を掲げさせ，スモールステップでの支援や達成への自己評価の機会を設ける。 ・保護者と目標や成果を共有する。 ②運動を通して粘り強さを育てる。 ・各種検定表を活用しながら，目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに，長期休業の課題にするなど，家庭と連携して取り組む。 ・「元気っ子チャレンジ」を奨励する。 ③認め励ます教育を推進するとともに，懇談会資料や学校ＨＰ等で「目標に向かう様子」や「粘り強く取り組む様子」を積極的に発信する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
１－（３）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①健康診断の結果や受診勧奨の通知を速やかに配付する。また，養護教諭を中心とし，児童一人一人に配慮した保健指導の充実を図る。 ②児童自らが危険を予測し回避できる能力を育成するために，災害や不審者を想定した避難訓練を実施する。 ③外遊びを推奨するとともに，「校庭でのきまり」を周知徹底する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

1－（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①振り返りの場を大切にした授業を展開したり，児童の成長を認め励ます機会を設定したりする。 ②授業や朝の会・帰りの会，共遊等において，児童が自分のよさを感じたり，友達と認め合ったりする場を設定する。 ③縦割り班活動やクラブ活動など，異学年交流活動の場を設定するとともに，友達との関わりの中での望ましい言動等を放送や掲示で紹介する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
2－（1） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①相手意識をもつことができる授業づくりをする。 ・外国語科や外国語活動の時間，教員と児童，また児童同士が英語でコミュニケーションを取る場面を増やし，言語活動の充実を図る。 ・インプットを重視するとともに，ＡＬＴと積極的に コミュニケーションを図る授業を展開する。 ②給食時に英語の音楽を流したり，児童がＡＬＴとのやりとりを発表したりするなど，児童が英語に触れる機会を多くする。 ③ＡＬＴとの交流給食や昼休みの共遊，清掃の時間等を設定する。（特に，英語でのあいさつ）	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①各教科・領域の学習内容と関連させ，地域や市の施設，歴史，食や伝統文化などに触れる機会を多く設定するとともに，他市町村の特色等と本市とを比較できるような授業展開を工夫する。 ②掲示コーナー，放送，朝会など，本市の魅力を分かりやすく伝える場を工夫する。 ③社会科や総合的な学習の時間において，宇都宮学との関連を図るとともに，掲示物などで視覚的に捉えられる場を設ける。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
2－（2） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①積極的に端末を活用した授業を展開していくとともに，各メディアの特性を理解したうえで，学校図書館司書と連携を取り，調べ学習等での図書資料活用も行う。 ②各教科等の中で，調べ学習や話し合い活動，まとめなどそれぞれの学習過程において，児童が正しく端末を活用できるように，計画的に指導する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

２－（３） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①自然の恵みへの感謝や命の大切さなどと関連付けながら，学校農園や花壇の整備，田植えや蛍の飼育などの体験活動に取り組む。 ②各教科等での環境問題や国際理解，防災や食をテーマとした学習の中で，具体的なＳＤＧs の視点を意識した展開を実践する。 ③学校図書館や掲示板にＳＤＧs コーナーを設ける。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 ９０%以上	①特別な支援を必要とする児童の実態や支援の手立てについて，日々情報交換を行うとともに，校内支援委員会や職員会議後の情報交換等において，全職員で共通理解を図り，迅速かつ組織的な対応に当たる。 ②特別な支援を必要とする児童の個別の支援計画を作成するとともに，保護者と密に連携し，児童の状況や支援計画等について共通理解を図る。 ③通常学級と特別支援学級，かがやきルームが適宜連携を図るとともに，必要に応じ，ＳＣや関係機関の助言を受けながら指導に当たる。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答９０%以上	①「いじめゼロ強調月間」等において，アンケート（年４回）や標語作成，教育相談における児童に寄り添った面談等を実施する。 ②道徳や学級活動の時間にいじめを題材とした授業を行い，正しい判断や行動力を養う。 ③学級懇談会やＨＰを活用して，積極的にいじめ対策を保護者へ発信していく。特に「いじめゼロ強調月間」における発信を強化する。 ④いじめ発生時は，いじめ防止基本方針等に基づき，児童や保護者に寄り添いながら迅速に組織的に対処する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答９０%以上	①道徳や学級活動の時間を活用して，互いのよさに気付かせるとともに，思いやりの心を育む。 ②分かる授業や個に応じたきめ細かな指導を実践し，児童が達成感や充実感を味わえるよう努める。 ③教育相談，各種アンケート，Q-U検査等の結果を活用するとともに，ＳＣや関係機関とも積極的に連携を図り，温かな雰囲気の学級経営に努める。 ④別室登校ができる部屋の確保など，短い時間でも児童が学校に来ることができる環境を整える。 ⑤欠席した児童と保護者が安心感をもち，登校への意欲が高まるように，電話連絡や家庭訪問を行うとともに，端末を有効に活用する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 ３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答９０%以上	①児童一人一人が居がいのある学級づくりに努める。 ・個々のよさを認めるとともに，自ら思考・判断できる場を保障する。 ・楽しく分かる授業の工夫をしたり，さまざまな教科で話合い活動を重視したりする。 ②なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動において児童一人一人の主体的な活動を促す。 ③作品掲示の工夫や，学校だよりや学校ＨＰで児童のいきいきした活動の様子を知らせるなど，家庭への発信の仕方を工夫する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答９０%以上 ⇒教職員の肯定的回答１００%	①児童が授業での学びを実感・自覚できるように，「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図る。 ②ノート・端末活用について，学年等で共通理解を図るとともに，思考表現の場としても活用し，論理的に記述する力を育む指導の充実を図る。 ③習熟度別学習や少人数指導など，実態に応じた効果的な学習形態を工夫するとともに，児童が身に付けた力を活用できるような授業を展開する。また，個に応じた演習問題を工夫するなど，様々な場面で活用できる力を育成する。 ④学力向上に向けた取組について，ＨＰや懇談などで保護者にも発信し，啓発を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 １００％	①チームとして，学習指導や児童指導，各担当業務に取り組む。 ・各部会（学年主任会・児童なかよし部会･情報部会）の活動を活性化する。 ・学校図書館司書，学校栄養士，かがやきルーム指導員，スクールカウンセラー等と日頃から連携し，児童の状況や支援方針等を共有する。 ②学校全体に関する課題や，いじめ，不登校，事件事故等に関しては，初期段階から児童指導主任や特別支援コーディネーター，管理職が関わり，組織的に対応する。 ③報告・連絡・相談を徹底し，気兼ねなく相談し合える雰囲気づくりに努める。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 ９０%以上	①自身の業務を適切にマネジメントする。 ・業務の内容や時間と，教育効果の関係を意識した働き方を進める。 ・計画的に業務を遂行するとともに，リフレッシュデーの取得に努める。 ②インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用するとともに，地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施する。 ③気兼ねなく相談し合えたり，定時退勤したりしやすい雰囲気づくりに努める。 ④ＩＣＴ等を使った教材を積極的に共有し，教材研究の効率化に努める。 ⑤①から④について管理職が適切な指示や助言等を行うとともに，教職員のモチベーションを保つような業務の縮減や効率化等を工夫する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ17　児童と向き合う時間を確保できている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 ９０%以上	①週２回ロング昼休みを設け，児童と向き合う時間を十分に確保する。 ②日常的な関わりとともに，教育相談において，児童一人一人の話をじっくり聴く。 ③教科担任制，ローテーション道徳等を学年組織で行うことで，授業準備の負担軽減を図る。	Ｂ	

５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ18　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答９０%以上	①乗り入れ授業やあいさつ運動，小６児童の中学校訪問，宮っ子チャレンジなど，児童・生徒・教職員が交流する教育活動を実施する。 ②地域学校園各部会や児童生徒指導強化連絡会等での情報を校内で共有する場を設定する。 ③学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。 ④各種便りやＨＰ，学校園の通知等において，保護者や地域へ効果的に伝わるよう内容を工夫する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ19　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答９０%以上	①魅力協と連携して保護者や地域ボランティア，地域の企業等の協力を得るとともに，協力者などの意見を踏まえ，活動内容の工夫改善を図る。 ②学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等，多様な教育活動での児童の取組を公開する。 ③ＨＰや学年だより等を積極的に活用して保護者や地域に発信する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ20　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答９０%以上	①ヒヤリハット事例を校内で共有するとともに，日々の活動の中での点検や月１回の安全点検を適切に実施し，修繕すべき箇所には速やかに対処する。 ②市教委と連携し，必要に応じて，早急な改善や予算措置等の要求を行う。特に，老朽化に伴う不具合や危険箇所は継続的に相談する。 ③学校施設を貸与している団体と適宜連絡を取り，学校施設の安全な使用について具体的に働き掛ける。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ21　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 １００%	①ＩＣＴ支援員と連携しながら，デジタル機器の設定や授業への活用方法等を工夫して授業実践するとともに，個々で作成したデジタル教材を共有して効率化を図る。 ②ＩＣＴに関する職員研修や自己研修等に取り組むとともに，情報教育部会が中心となり，職員間での情報交換や授業参観を行う。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答９０%以上	①職員が率先してあいさつを行うとともに，「みず台３つの約束」の「元気なあいさつ」で，あいさつの対象者を具体的に明示しながら指導する。 ②児童会を中心とした「あいさつ運動」を行う中で，当番児童や運営委員会児童以外の多くの児童が運営に参加できるよう工夫することで，児童の意識がより高まるようにする。 ③あいさつ強化月間を設定し，あいさつの励行などを各学年の月間の生活目標に掲げる。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 ９０%以上	①「みず台３つの約束」を児童指導の柱とし，日常生活の中で児童に意識させるために，学年の実態に応じた生活目標を設定して指導する。 ②「よい子の一日」や「よい子の学習のきまり」を活用して，きまりやマナーの意義を考える機会を定期的に設定する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ３ 児童は，縦割り班やグループで，協力し合って活動している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	①縦割り班活動において，児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるように，目標や課題の提示の仕方などを工夫する。 ②上級生の自覚とリーダー性を養ったり，下級生が上級生への親しみや憧れ，感謝の気持ちをもったりできるように，縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。